

授業の様相 — 解釈的研究

— 歴史の授業を事例に —

田 代 裕 一

A Study on Modality of Discussion in Classroom Process:

A Case Study of History Teaching

Yuichi Tashiro

1 授業の様相—解釈的研究

授業の様相—解釈的研究とは、重松鷹泰が創設した「授業分析¹⁾」に基本的に依拠しつつも、授業の構造的全体像（授業を、内容面を含めて形態として示したもの、いわば授業の「様相」といえよう）を作成して、その全体像を分析検討の際、共通の判断基盤にして、授業の特徴・問題点などを解釈し指摘しようとするものである。筆者は今まで「発言表²⁾」という手立てを用いて、様相—解釈的研究の成果について本論集などで報告してきた。小学校1年生から中学3年生までの授業実践で40事例以上行ったので、今までの総まとめを行う段階にあるといえるが、まだ若干、研究方法論の意義の検討や事例研究を蓄積していく必要性を感じている。

そこで、今までは学年ごとに事例を分析し、学年的発達の特徴を把握することを主にしていたが、今後はテーマや教師ごと、さらには各学年の比較検討など、課題を絞って追究していきたいと考えている。また、併せて、「発言表」を使用する授業分析の教育学研究としての意義の追究も努めていきたい。現在、その観点から着目しているのがグラウンデッド・セオリーという考え³⁾である。これは、先に理論ありきではなく、具体的データを積み上げることによって

理論化を徐々に図るという提言で、仮説を排除して積み上げ般的な検証を進めていく「授業分析」にも適するものである。また、注目すべき最近の授業の談話分析としては、社会文化的アプローチがある。村瀬はワーチの理論を紹介しつつ、「間接話法」としてのアプロプリエーション（領有）の意義などを考察している⁴⁾が、これは、授業における概念・言葉の生成・発展・共有の状況を提示する「発言表」においても参照できる点があると思われる。

2 発言表を使用する授業分析

発言表は、授業での発言を、現象の時系列を壊すことなく「眺め渡す」表であり、授業分析にとって有効な補助資料を提供することをその第一の目的としている。発言表は言語状況について感覚的に受け取ることのできる情報、例えば、初回発言の系列や、個人の発言状況（連続・集中・偏りなどのある状況）、全体的な発言分布、相互関係などを形として示すことができる。中村亨がこの発言表の理論やオリジナルタイプを提案し、田代や田上哲がその改良や、応用的開発に取り組んできた。田代は特に、原型の発言表に対して発言量を示す線の横に主要な言葉を記号化して載せる、罫線の単位で発言量を表す、発言間の関係を図示する、等の、授業の様相が学習内容面を含んでより明確になるような「手立て」を加える試みを行っている。

ここで発言表の作成の手順について簡単に述べておく。発言表は基本的に、発言者名欄及び、発言状況欄からなる。発言状況欄には、授業記録上の全発言の長さを、縦の実線として記入する。本稿では授業記録（雑誌「考える子ども」掲載）での発言記録の二行分（一行…30字程度）を罫線の実線の一単位分にしている。さらに、授業において用いられた重要なコトバを記号化して載せている。表中の発言で重要なものや、注目すべきものは点線で囲み、また、発言と発言の関係は矢印などで表した。右の発言内容の欄には、その授業での内容展開や言語的応答関係を示す上で、重要と思われる言葉を抽出して記載している（原文の約4分の1）。発言表の原版はB4判サイズだが、紙面の都合上、縮小している。

3 今回、取り上げる事例

分析事例として取り上げるのは、「社会科の初志をつらぬく会⁵⁾」の夏季全国集会で提案された授業実践である。これらの授業実践を事例として取り上げる理由は、本会は問題解決学習を重視し、個としての子どもの追究活動を大切にしているため、一般的に、授業での子どもの発言が多く、子どもどうしの相互作用が活発であることから、発言表による分析対象として適切だと考えたことによる。本会の機関誌「考える子ども」に掲載された提案の授業記録（授業記録集が作成された1978年から現在までの中から選択）を用いるが、今回は比較的、近年の、時期が近接している事例を取り上げて検討する。なお、筆者は本稿で使用した事例①、事例②の提案授業の分科会に参加して、提案者の意図や実践の諸事情を知る機会も得ている。

今回は小学校の歴史の授業（幕末から第二次世界大戦まで）を取り上げる。ちなみに、社会科における問題解決学習は、歴史分野が一番、困難と考えられている。学校教育において歴史は時系列に編成されて指導されており、系統的指導になりがちである。また、児童の切実な問題を設定することが、対象となる事柄が時間的に離れていることもあって、容易ではない。

4 「発言表」による授業の分析

分析事例①

○大阪府K小学校6年生 M先生指導 社会科「岸和田藩とだんじり祭り」
2006年12月12日 児童数19名。原授業記録は「考える子ども」310号
2007年（78頁～89頁）に掲載されている。以下の分節分け、および分析は筆者による。

・第1分節（1T～14RI）

司会が、本時の学習課題（岡部の殿さまはなんでだんじりをつぶさなかったか）を示し、意見を求めている。岸和田藩の決まりだった、長ひろ（当時の殿様）が自分の代ではつぶされないと考えた、農民の気持ちを考えた、といった発言が出ている。農民の気持ちを考えたという意見には反論も出て検

討されている。

• 第2分節 (15MY～20JN)

MYやJNは自分が想像したこと、思いついたことを発言し、他の子どもに学習の流れと関係があるのか、と言われている。

• 第3分節 (21KZ～28NN)

殿さまは(だんじりを)つぶすと神さまのバチがあたると思った、というKZの意見が出て、他の子どもの支持を得ている。だんじりは神様に近づくための道具だから、といった発言も出ている。

• 第4分節 (29YU～47MY)

この時代はがたがたしていた(開国への圧力や幕府を倒そうという勢力も出ていた)、殿さまは、世の中がややこしい時代になってたので禁止にしたが、神さまに反抗できなかったのでだんじりをつぶすまではしなかった、という、時代背景と関連させた発言が出ている。

• 第5分節 (48T～53C)

司会が次時の課題を確認し、「だんじり復活」というテーマで話し合うことになる。

○授業の発言状況

教師の発言は3回のみである。教師と子どもの発言回数比は1対16.7で、教師の発言に比して子どもの発言が圧倒的に多い。教師の発言はいずれも1単位で子どもの発言の内容の確認や発言を促すものである。司会も子どもで、授業の基本的な構成や方向づけは子どもたちが行っている。子どもたちどうしの質問—応答も各分節でみられる。子どもから3単位(発言記録上の2行分を1単位としている。したがって3単位は大体120字～180字に相当)以上の長い発言が11回ある。JNが11回、MYが6回発言するなど、発言の多い特定の子どもがいる。

第1分節は最初に司会が発言し、学習課題を示している。司会の他、初回発言者は8名である。3単位以上の長い発言も6回あり、後半は子どもどうしの質問—応答がみられる。JNは3回発言している。T7は、MY6の発言を確認している。第2分節は、MY対RO、JN対ROの短いやりとりの箇所であ

る。それ以外の発言者はいない。いずれもROが相手に確認しているものである。第3分節はKZ21の発言が契機になっている。KZを含め4名の初回発言があり、授業参加者が広がっている。後半、JN27の5単位の長い発言があり、これに対しNN28が補足するなど、意見が次々と出ている。この分節では教師の発言はない。第4分節はYU29の発言が最初である。JNは4回発言して、YUなど、他の子どもの発言に付け加えをしている。NN35は5単位の長い発言である。KY39も4単位の発言をしている。教師はT32で1単位の発言をして、子どもたちの発言に付け加えている。T41ではTSの発言を促している。TSも発言(43)している。本分節での初回発言は3名だけで、今まで発言していた者が多く発言している。第5分節では、司会と子どもたちが1単位の短い発言を交わして(計6回)、今後の予定を確認している。この分節で教師の発言はない。

以上のように、本授業の進行はほとんど子どもたちの発言に委ねられており、教師の介入は、ごく限られたものであった。しかし、子どもたちは最初の段階から自分の意見や考えを十分に出し、質問一応答を積極的に重ねながら、問題を追究していた。

○言葉・概念の展開状況

子どもたちが、「主要な言葉」(ここでは、授業の内容構成を考える上でポイントとなるものとして発表者が選択して、記号化して発言表に掲載した言葉を意味している)のほとんどを出していた。教師が先に出したのは、第4分節の時代だけである。子どもの発言には、5個以上の主要な言葉を一度に含んだものもあった。

第1分節の最初、司会がつぶ(す)を出しているが、これは本時の学習課題(殿さまはなんでだんじりをつぶさなかったのか)を端的に示す言葉であり、本授業の全般を通じて多く出ている(第5分節を除いて計9回)。殿(さま)も8回の発言で用いられ、特にJNは3回の発言で用いている。NA5は農民、お金を出して追究の観点を広げている。MY6も農民を用いてNAに反論している。さらに、RM9とNT10は一揆を用いて、農民の観点から述べている。その後も、KT12やRI14は農民を用いて、JNにつなげて発言している。

第2分節ではMY15がつぶ(す)、一揆を、J N18が殿(さま)を用いている。第3分節ではK Z21が殿(さま)、つぶ(す)の他に、神様を出して、殿さまも神様のバチが怖かったと発言している。神様は、K G24、N N25、R I26、J N27などに用いられ、中心的な話題になっている。その他、つぶ(す)が3回、殿(さま)が2回、終わりの方でお金が2回出ている。このように、だんじりの費用も問題になっている。第4分節では、Y U29が危な(い)を出している。これは、当時の状況を表す言葉である。T 32は時代、危な(い)を用いて、この時代の特性を子どもたちに確認している。MK33はがたがた、時代を用いて発言する。この、がたがたも時代の特徴をよく示す言葉で、その後、3回出ている。N N35は1回の発言で危な(い)、開国、幕府、つぶ(す)、がたがた、と5個の言葉を用いて、時代状況と関連させて説明している。MK38やK Y39も開国などを用いている。R M40は幕府と岸和田藩を出して、幕藩体制の動揺について述べている。T S43は、殿(さま)、時代、つぶ(す)、神様と、今まで出てきた主要な言葉を関連的に用いているが、この発言は、本時のテーマの結論ともいえる。特に、第3分節で多く出ていた神様が用いられ、授業の流れが繋がっている。J Nは2回の発言(44、46)で殿(さま)、幕府、岸和田藩、農民、危な(い)といった言葉を用いている。MY47も幕府、岸和田藩、がたがたを用いて幕末の状況を示している。第5分節は次時の確認が主であり、主要な言葉は出ていない。

以上のように本授業では殿(さま)、つぶ(す)など、全体を通して多く用いられる言葉と、各分節で限定的に用いられる言葉がみられた。例えば、一揆は第1分節、第2分節で出ていた。農民も第1分節で多く用いられていたが、その後は、第4分節の終わりに少し出る程度であった。第4分節からは危な(い)、時代、がたがた開国といった、歴史状況を示す言葉がよく出ていた。本授業ではこのように、殿様の意図や農民の気持ちの検討から、次第に時代状況や政治体制といった歴史的な局面の検討がなされていることがみてとれた。また、子どもの関心のあり様を見て取ることもできた、例えば、J Nは全体で殿(さま)を5回用いているが、農民は終わりの方での1回用いているだけであり、他の子どもに比べて、殿様の観点が強かったといえよう。また、MYは前

半、殿（さま）と農民を2回、後半では幕府と岸和田藩を2回用いており、対極にあるような観点を設定して、幅広い検討をしていたように思われる（無論、このあたりの点は、子どもに関する他の周辺の資料とつき合わせて、より詳細に検討する必要がある）。

分析事例②

○福岡県 H小学校6年生 R先生指導 社会科「米騒動と水平社創設」

2005年11月18日 児童数は36名 原授業記録は「考える子ども」303号

1996年（47頁～60頁）に掲載されている。以下の分節分け、および分析は筆者による。

・第1分節（1T～26MY）

第一次世界大戦と、その時の日本の様子について、自分たちが調べてきたことを確認している。第一次世界大戦と日本との関係や、戦争と日本の経済（輸出が増える、黒字）が多く出ている。また、炭坑はもうけているのになぜ賃上げ要求がでるのか、日本は黒字になったのになぜ米騒動が起きるのか、といった問題が出ている。

・第2分節（27MM～80YS）

MMの発言を契機に、お金をもうけているのになぜ米騒動が起こったのか、が追究されている。輸出してもものが不足した、無駄なものにいっぱい使いすぎた、天皇がいろんなものを買いすぎた、天皇などのえらい人がもうけをひとり占めした、業者や社長が給料をあまり払わなかったといった意見が多く出ている。戦争に参加しなければ死者はでなかった、戦争がなかったら日本は赤字で困っていたといった発言も出ている。また、石炭が多く使われるようになったのに給料がなぜ少ないのか、なぜ炭坑に一番多く米騒動が起こったのか、という疑問も出ている。

・第3分節（81T～91JN）

教師が今までの子どもの発言を整理し、日本は大もうけしたのに国民の生活が苦しかった（給料が少なかった）という点を学習問題として提示している。子どもたちは、天皇、社長はお金がほしいので人々にあまりやらなかつ

た、国の財政をたくわえようとした、といった意見を出している。

・第4分節（92S O～100T）

S Oから教師に戦争は日本が勝ったのかという質問が出て、日本に対してドイツの攻撃があったのかが確認される。

・第5分節（101K N～130Y U）

再び、米騒動の原因が議論され、米屋は炭坑がもうけているとって値段を高くした、天皇がいいように（もうけを）使おうとした、炭坑は儲けていた、社長が独り占めした、重化学工業が発展して有毒なガスが出て米がとれなくなった、などの意見が出ている。このガスをめぐって意見が多く出され、当時、米はあったという反論も出ている。なぜ、値段をあげて米騒動が起こるようなことをしたのかという疑問も出ている。また、終りのほうで福岡の米騒動の理由は賃上げである、といった意見がA Kから出ている。

・第6分節（131T～137T）

教師が、(明治期の富国強兵策に影響を受けているような発言が多かったので)、子どもたちの意見を確認している。天皇や政府、工場の人にお金が行ったという発言が出ている。教師は自分の最終的な考えを書くように指示し、それをもとに次の時間調べると述べて、授業を終了している。

○授業の発言状況

教師と子どもの発言回数比は1対3.2である。教師は第1分節（3回）、第3分節（2回）ではあまり出ていないが、それ以外の箇所では比較的多く出ている。特に第4分節、第6分節は教師の発言が多い。子どもたちの発言も活発で、3単位以上の長い発言が26回ある。授業全体で、Y Uが9回、J Nが8回、など、一人で複数回の発言をしている者もいる。

第1分節では課題を述べるA Y 1の発言の後、教師が8単位の長い発言をして、今までの学習内容と本時の学習のめあてを確認している。その後、18名の子どもが発言している。複数回の発言は、A Y 2回、Y U 3回、Y K 2回と、あまり多くはなく、順番に1回発言している者が多い。子どもからは全体で23回の発言があるが、その内2単位以上の発言が19回と多い。教師はT 2以降、2回、1単位の発言をして、Y U12・13やA R19に回答している。子どもたち

の発言は単発的なものや、他の子どもの意見への付け加え的なものが多い。第2分節は、子どもどうしの質問—応答、議論が生じている。MM27の発言に対してAK28やYK29が反論している。KN31には教師が対応している（T32・34）。KN31・33にはフォローする発言が出ている（YU36、TM37）。その後、教師と特定の子どもの一対一的対応がみられる（YK43対T44、ST45・47・49対T46・47、HS50対T51、TA52対T53、ST54・56対T55・57、など）。さらに、TK58の発言を契機に、再び、子どもどうしの質問—応答、議論が生じている。TKの発言にはHS59・61が反論している。YU68はTKをフォローしている。SB63の発言にはTA71やMY74が意見を出している。初回発言者は3名である。第3分節では、まず教師が3単位の発言をして、学習問題を明確にしている。続いて子どもの短い発言が3回あり、教師による子どもの発言を促す1単位の発言がある。その後、6名の子どもから1回ずつ発言が出ている。第4分節はSO、MY、YKと教師とのやりとりがある。第5分節では2名の発言の後、ST103の発言に対して賛同する意見（TK105、YU106、MM116）や反対意見（AK106、C107、YS121、YK128）、関連する意見（TO112）などが出て、議論になっている。教師は7回の発言をしているが、6回は1単位の短いものである。T127は授業の方向づけの発言であるが、それ以外は子どもの発言内容を確認したり、質問に答えたりするものである。第6分節は教師が、CやYKと対応しながら断続的に2単位の発言を4回している。子どもの発言は3回でそれぞれ1単位の短いものである。

本授業では第1分節から多くの子どもが発言しており、教師への確認、意見の提出がなされていた。そして、第2分節にみられるように、2～3名で質問—応答、議論が生じていた。発言もかなり広がっており、理由などの追究がされていた。その後、焦点が絞られて議論が起きていた。ただ、少し細かい点の追究が多かったようにみられる。一方、本授業での教師の指導は、子どもの発言内容の確認と、子どもの質問に答えることが多かった。また、教師と子ども個々との一対一的対応も多かった。このように本授業の話し合い活動は、その参加者の数や内容の多様さから、第1分節、第2分節など、前半が充実していたようにみられる。

○言葉・概念の展開状況

本授業での「主要な言葉」は、米騒動と炭坑を除いて、ほとんど子どもから出ていた。教師は第2分節以降、子どもの言葉を後追的に使用していた。

第1分節ではT2で、米騒動、炭坑を用いて本時のめあてを確認している。子どもたちはYK6がもうけ、AK7が炭坑、輸出、賃上げ、HS8がお金、黒字、米騒動を用いている。その他、TAが米を出している。これ以降、他の子どもたちもこれらの言葉を用いて発言している。YK22はお金、もうけ、米、給料、SY24は炭坑、もうけ、お金、賃上げ、と一つの発言に4個の主要な言葉を用いている。MI21以降、お金、もうけは4名の子どもが用いている。また、給料も4回用いられている。全体的に見ても、お金・もうけは6回出ており、経済的な面への注目がわかる。第2分節ではMM27がお金、米騒動、輸出を出し、米騒動の理由を述べている。AK28では給料、米騒動、輸出、お金、もうけ、天皇を用いて、天皇がもうけていると主張している。さらに、YS39まで、もうけが5回、天皇が4回、お金が3回、輸出が3回出て、輸出でもうけたという意見と、天皇がもうけたという発言が出ている。その後、YK43は炭坑、社長、もうけ、給料を出している。教師もT46で社長という言葉を用いて対応している。社長は、TK58、HS59、YU68にも用いられて、社長がもうけたのかが議論されている。また、お金も多く用いられていてMY42からMI67まで10回出ている。MY74は黒字、赤字を出している。TKも2回の発言で赤字を出している。T79も赤字を用いて対応している。第3分節ではもうけが5回、お金が5回、天皇が3回、社長が2回、政府が2回出ている。このように、第2分節の後半での話題が再び、出ている。第4分節は、MY96が社長、赤字、お金を用いている以外は、主要な言葉は出ていない。第5分節では、ST103が炭坑、黒字、お金の他に、ガス、米を出して、米が有毒ガスでだめになったので米騒動が起きたという意見を出している。ここから米とガスが多くの子どものに用いられて、米が有毒ガスでだめになったのかどうかが議論されている(米…YK104、C106、YS107、T108、YK124、JN126、T129 ガス…TO112、YS121、米とガス…TK105、YU108、MM106、AK128)。AK128は賃上げを用いて、福岡の米騒動の理

由は賃上げだと発言するが、これは貴重な意見である。この分節では、社長も4回出ていて、社長がお金を多くとろうとしたのかも議論されている。第6分節では教師が断続的に発言して、政府を3回、天皇を2回、お金を2回、社長を2回用いて、子どもたちの考えを確認している。Y K136は天皇と社長を用いて、両方が遊ぶ金に用いたと言っている。

本授業で子どもたちは、前半から、第一次大戦で日本は輸出が増えてもうけているのに、なぜ米騒動が起きたのかを疑問に思い、熱心に追究して多くの発言をしていた。教師は子どもの出した言葉に、丁寧に対応し、後追的に用いていた。子どもたちが出した意見は、米屋が売れるので米を高くしていた、上の人（天皇・社長・政府）がもうけを独り占めした、つくったお金で工場とかを作った、有毒ガスで米がとれなくなった、など様々なものであった。ただ、意見は多く出ていたが、確認のできる資料や根拠がやや乏しいこともあって後半での追究の深まりがやや弱い面もあった（米商の投機買いは6年生が理解するにはやや難しい面があるのかも知れない）。ただ、学級の現状として、まだ発言が少ない段階であったそうで、多くの発言が自由に出ることが本授業では重視されたのかも知れない。このような状況を考慮しても、Y T39（なんで炭坑が一番多く米騒動がおこったのか）やY S107（なぜ値段を上げて何で米騒動が起きるようなことをしたのか）の発言は非常に貴重だったといえる。Y S107の発言には、教師も対応しているが（T108…米をうらんかった理由があるかも知れんね）、この発言が全体の課題になればより深まった追究ができたかも知れない。

事例分析③

○神奈川県 A小学校6年生 O先生指導 社会科「どんぐりと戦争」 2006年12月21日（児童数は原授業記録には明記されていない。） 原授業記録は「考える子ども」310号 2007年（64頁～77頁）に掲載されている。以下の分節分け、および分析は筆者による。

・第1分節（1T～24DK）

教師が、本時の課題（どんぐり拾いをした人たちの気落ちを考える）を出

している。子どもたちは、楽しかった、国のためになると思った、心おきなく拾った、など自分の考えを出している。大東亜を建設するのに必要なものがどんぐりだったという意見が出て、その意味が確認されている。

・第2分節 (25T～52KY)

教師がさらに違う考えを求め、子どもたちは様々な発言を出し、子どもたちがどんぐり拾いを面倒と思っていたかどうかや、内心喜んでいたかどうかを検討されている。

・第3分節 (53DK～70YT)

DKが、どんぐりは戦争に役立っていないという発言を出したが、議論は子どもたちはどんな気持ちで拾っていたかが中心になっている。その後、KYが、1%も役になっていなかったのになんでどんぐりを拾わなきゃいけないのか、と疑問を出している。

・第4分節 (71T～98T)

教師が、(森林組合の人は)どんぐりが1%も役になっていなかったことを知っていて、何でどんぐり拾いを続けたのか、と尋ねている。子どもたちは、兵隊の食料になる、兵隊を少国民が尊敬するようになる、他のものをとる、色々なものに役立つ、1%以下でも役に立つ、1%じゃたりない、といった様々な発言をしている。教師は時間がきたので、次回この続きをすることを確認して、終了させている。

○授業の発言状況

教師と子どもの発言の比は1対2.9である。子どもの3単位以上の発言は3回のみで、短い発言がほとんどである(2単位は14回)。ただ、最後の第6分節では長い発言が比較的多く出ている。

第1分節ではまず教師が2単位の発言をした後、11名の子どもが発言をしている。2回以上の発言をしている子どもは5名である。教師は6回発言しているが、最初の発言以外は1単位で、子どもの発言内容を確認したり、意見を求めたりしているものが多い。YS6は、4単位の長い発言である。SU、YTは3回、KZ、HR、YGも2回発言をしているが、全般的に1単位の発言が多い。第2分節も最初の発言は教師である。初回発言者は4名であり、第

1分節で既に発言していた子どもが再度、出ていることが多い。2単位の発言は5回で、全体的に短いものが多い。HRは1単位の発言を5回出して、自説を強調している。HR(27・29)に対してYS30やYT32が反論している。さらにER35、KY36、MY37も発言し、それに対してHR38が反論している。教師はT40でDK39の発言を取り上げている。続いてKY41、TK42、ST43が1単位の短い発言を出している。また、SU48の発言に対してER49、KY52が反論している。このように活発な意見交換がみられる。第3分節の最初にDK53の発言が出ている。この発言を教師が取りあげて、内容を子どもたちに確認している。KY(61・67)とT(62・68)とで応答している。SU63とYS64の間で意見が対立している。初回発言者は1名である。第4分節では教師がまず発言している。KZ72とT(71・73)のやりとりがある。その後、TKが教師とやりとりをしながら3単位の発言を3回して意見を出している(76・78・80)。このTKにYK86は反論している。また、YS83・85・89とKY88・90の間に論争が起きている。KYに対してHR91やYU92も反論している。YO93とYT94も意見が違っている。最後に、教師が3単位の長い発言(98)をして授業を終了している。

以上のように、本授業では子どもたちが比較的短い発言を多く出して、意見を確認し合って授業を展開している。子どもどうしの質疑一応答や議論もあるが、あまり多くの子どもたちに広がったものにはなっていない。分節の最初の発言は教師であることが多く、授業の基本的な構造づけは教師が行っているといえる。教師と子どもとの一対一的対応も多かった。

○言葉・概念の展開状況

子どもたちから「主要な言葉」が多く出ている。教師は、その直後にそれらの言葉を用いていることが多い。

第1分節では楽し(い)がKZ2から出ている。T3も楽し(い)をとりあげている。HR5は国のため、YS6は兵隊(さん)、命がけを出して国家や戦争との関連を示している。SU8は国のため、役に立(つ)、楽し(い)を出しているが、特に、この役に立(つ)は、第3分節以降でも用いられ、重要な観点になっている。その後、DK24が楽し(い)を出している。第2分節

では主要な言葉が多く出ている。TK26、YU28 が楽し（い）を出している。HR27・29 は面倒を用いて、新たな観点を出している。これに対して、YS30 やYT32 は面倒、兵隊（さん）、怒られるを用いて、子どもは拾わないと怒られたと発言している。T31 も面倒を用いて、子どもたちの意見を求めている。その後、ER35 やKY36 は楽し（い）、怒られるを出して、どんぐりを拾う人の気持ちを発言している。MY37 は兵隊（さん）を出している。これに対してHR38 は、遊び半分を用いて、遊び半分でやったほうがけっこう集まると反論している。この遊び半分はKY41、SU43、T44 なども用いている。その後、ST48 がいやいやを出し、子どもたちはいやいやどんぐり拾いをやっていたかが検討されている。いやいやはER49 やKY52 も用いている。YK51 は食料を出し、どんぐり拾いを食料という観点から追究している。第3分節では、まずDK53 が役に立（つ）、楽し（い）を出している。T54 も役に立（つ）を用いて対応している。YS56、MZ57、YU59、MY60、SU63、YS64 も兵隊（さん）を用いている。T65 も兵隊（さん）を用いて応じている。その他、MZ57 は命がけを用いている。T58 も命がけを用いる。その後、KY61 は再び、役に立（つ）を用いている。教師もT62 で役に立（つ）を用いて、話題にしている。さらに、KY67 が疑問と役に立（つ）を用いて、なんで1%も役に立っていないのにどんぐりを拾わなきゃいけないの、という疑問を出している。即座にT68 は疑問、役に立（つ）を用いて、追究問題として提示している。第4分節はこの疑問を追究する個所であるが、KZ72 は兵隊（さん）、食料を出して、兵隊さんの食料になったと発言している。T73 は、同じく兵隊（さん）、食料を出して、どんぐりは兵隊の食料になったのではないと訂正している。さらにTK（76、78、80）は尊敬、兵隊（さん）、命がけを出して、どんぐり拾いをすると兵隊さんを子どもが尊敬するようになる、兵隊さんが命がけで戦っているという気になる、といった「精神高揚」の観点から意見を出している。教師もT77・79 で尊敬を用いて確認している。その後、どんぐり以外の他のものをとるのが話題になり、T84、YS85、KY88、90 が他のものを用いている。KY88 は他のもの、疑問を用いて、他のものをとったなら割合はもっとあがったと、疑問を出している。KY90 は、役に立（つ）

も用いている。HR91は役に立(つ)を用いて、KYに反論している。YO93も、国のため、役に立(つ)を用いて、1%以下でも国のために役立てばいいと思った、と述べている。その後、T98は疑問を用いて、KYの疑問(森林組合が拾わせ続けたのはなぜか)について次回、取り上げることを示して、授業を終了している。

このように子どもたちは、様々な観点を示す言葉を出して、意見交換をしていた。その中で特に、役に立(つ)は、どんぐり拾いの意味を社会的に追究する上で重要だったといえる。教師は子どもの出した言葉に即応して、繰り返し用いていることが多かった。また、KYの出した疑問も教師は用いて、追究課題にしていた。この点について、どんぐり拾いの精神高揚といった面での意義が検討されていた。ただ、時間がせまっていたこともあり、次回の追究活動になっていた。なお、KYは役に立(つ)を3回の発言で用いるなど、この点にこだわっていたことが見て取れた。また、疑問を3回用いており、授業で疑問に思ったことを素直に出していた。

5 まとめ

本稿では以上の3つの授業を取り上げて分析した。事例①では、「殿さまはなぜだんじりをつぶさなかったのか」という問題について、子どもたちは、殿さまと農民という観点や、時代状況などの観点から総合的に追究を行って、最終的に自分たちが納得できる結論にまで達していた。教師も発言による対応は少なかったが、子どもたちの追究が歴史的な観点と関連するように適切な指導を行っていた。事例②では、子どもたちは第一次世界大戦の日本の状況について積極的に発言し、さらに、日本は輸出が増えてもうけているのに、なぜ米騒動が起きたのかといった問題を熱心に追究していた。教師は子どもの出した言葉に、丁寧に対応していた。後半、有毒なガスで米がとれなくなったのか、という議論にやや時間を取ったことや、米騒動の原因などについて確認できる資料が乏しく実証的な検討が弱かったことが課題と思われるが、その一方で貴重な疑問も出ており、議論の発展の可能性を感じさせる授業であった。事例③では、戦時下でどんぐりを拾った人の気持ちについて、子どもたちは積極的に発

言して、意見を出し合っていた。教師は子どもの出した言葉に即応的に対応して、繰り返し用いていることが多かった。このような中で、KYの発言（なぜ1%も役に立たないのに、どんぐりを拾わなきゃいけないのか）が出て、追究課題に設定されていった。これは当時の社会的背景や意図（末期的な状態・精神高揚・総動員体制）の追究につながる貴重な疑問であったといえる。

このように3つの事例を分析したが、歴史の授業の場合、子どもたちの把握しやすい身近な課題と歴史的背景・状況との関連化がどのようになされるのか、という点が重要であることが分かった。またその関連づけの仕方（授業の方向づけ、資料の活用など）についてもこれらの事例は示唆に富むものであった。そして、各事例でそのような活動がどうなされていたのか、といった動的な状況について「発言表」は示すことができていたのではなかろうか。

[注]

- 1) 重松鷹泰『授業分析』明治図書 1961年。
- 2) 発言表の理論や基本的な考えについては以下の論文、等に発表されている。
中村亨「発言表を使用する授業分析 ―授業における子どもの相互関係にふれて―」教育方法学研究第12巻 1987年、田代裕一「発言表を使用する授業分析 ―ワープロ処理による授業の内容的構造の追究―」教育方法学研究第14巻 1989年、田上哲「授業の縦断的研究に関する一視点 ―個人別発言表を使用した子どもの発言の追究―」教育方法学研究第16巻 1991年、その他。
- 3) そのような考えを示すものとしては、B・G・グレイザー A・L・ストラウス『データ対話型理論の発見』新曜社 1996年、などがある。
- 4) 村瀬公胤「5 教室談話と学習」（秋田喜代美『授業研究と教室談話』放送大学教育振興会 2006年 所収） 76-80頁。
- 5) 「社会科の初志をつらぬく会」は民主主義社会を支える人間の形成を目指し、そのための学習法として、特に社会科での問題解決学習を重視している。

大阪府 K小学校6年 D先生指導 社会科 (C) 授業に於ける発言内容の一部

【詳細集とだんじり集】 2006年12月12日

分節	教師	子ども
		<p>なんでっかよなかつたのか だんじりって昔からやってた ずっと脈々という波まりが 歳さまはそれくらい段められる その意見も考えられる 長妻 先祖代々伝えているし 長妻 知って来た歳さまやんか おれの前でぶさされて だんじり好きじゃなかつた 歴史の気持ちも少しは察してる 歳やしたら お金もかかるし 写している ところで、分かる? 高りとぼせていうこも</p>
1		<p>歳さんはこの時代一番強いから なんでも命守で来たと思う もしやうこと聞いたらへんかったら どこの裏に隠りとぼすぞって それやたらとよけに二重 それ、ありえる 困る 歳さま お城におれへんかった 岸和田生まれでいてるで 歳やしたら農民の怒りがもつと つくりなすす お金がかかる 攻めかへんから 戦家する 歳さまもそこまでしたらまずい だんじりが現かへんのは 農民だっていややった がまん 強直したら、やめやして だんじり小屋 自分の地区に いっぺんにぶさるな 歳Y、何言いたいん? なんかいやう想像しただげ それでの歳さまと歳やあつて それ今の話と関係ある? なんか、そうおつたんよ 歳さんは、もしあしたら 神様のパチがあたると思った 神様にお願いにいくのが祭り それや! きつねつ(男)も 祭りの時、大事なのは、吾人り めしていると思います とを引きつけてから 百鬼夜行を願うってことでいく 神様に近づいたの道具って 歳さん 神はこわいんやろ? 伏見稲荷神社から 勧誘して そのあと、岸和田城にまつて それがつつついているわけ 大事な道具 つぶす勇氣ない らよつと、やめけてやなだ いってとは、お金かかるから たまん がまんしなさいって 岸和田のだんじり 城の中に 今こう頃って 危ないんやろ? 判人の中に家入までして城に わかつた、スバイや! 歳さまがねられる可能性が</p>
2		<p>毎巻を見て下さい ベリー 一部の中がたがたしてる時代 そやから、スバイがうらうら 資料集のP68で 韓国政策 国外では強い国が 植民地に 日本も危なかつたと思う 韓国の要求 朝鮮は困っている がたがたしていたと思います 歳よつてやうなもんか そりんんん 歳さま 禁煙 韓国というのは、日本植民地 1854年に結んだやろ キリスト教 韓国 韓国して 外様大名が活躍して書いて 若い人たちが 活躍して国を 江戸時代もがたがたになって へんやつがそのへんきて だんじりを現している場合と歳う</p>
3		<p>この頃は、どういう時代やっ</p>
4		<p>TSさん、自分の考え出した方</p>
		<p>TSさん、言う?いける? ややこい時代に 禁止した つぶすまで考えるのは行き過ぎ 朝鮮がつぶれるのをよそこと なんか世の中がらってかわる</p>

大阪府 K小学校6年 D先生指導 社会科 ②																							
授業における発言内容の一部																							
2006年12月12日																							
分	節	教師	子ども	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
	4		岸和田藩の殿さまはいなくなる 岸和田藩もこぼれてくる 農民と手を結んだら 岸和田藩が危ないかも 殿さま 天皇につくか、幕府につくか																				
	5		チャイム 次はどの藩まで もうこのあと 明治やん 1871年にたんじり祭りの日 で、するん たんじり祭りということ で																				
<p>* 本授業で出された主要な言葉・概念・記号</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ……つぶ(す・さな) ⊙ ……殿(さま)・長ひろ ↑ ……農民 ✂ ……一揆・抵抗 ¥ ……お金 ☸ ……神様 ㊦ ……危な(い) ⌒ ……時代・江戸時代 ⌒ ……がたがた ⌒ ……開国 ⌒ ……幕府 ⌒ ……岸和田藩 																							

福岡県 H小学校 6年 R先生指導 社会科 ㊸																										【本欄欄と水平注欄】 2005年度		
T	A	Y	Y	Y	Y	Y	H	S	T	M	T	J	S	M	A	M	M	S	M	R	K	M	S	T	C	授業における発言内容の一部		
Y	M	S	U	K	K	S	B	K	S	B	K	S	A	N	T	M	R	I	A	Y	Y	N	H	A	O	O	教師	子ども
																												SA君 第一次世界大戦、30ヶ国 協約国をあげないの書いている 外国から、輸入したりして 競争とか起さなくても、勝てる 競争を闘っていた人、社長さん 儲かるのは今だけとか子供 儲けがカンと儲ったら もうこのままでいいや
																												あとで減るかもしれないから
																												ST君 働いているその業者 社長さんがあげなかった
																												会社の上の人たちっていうこと
																												うん 社長はもうけているのに あまり給料をもらっていない
																												給料を上げてないから
																												社長を、輸出するときのお金 わけばいいんじゃないかな
																												福岡の支店、賃上げを要求 社長、船の エネルギー ほとんど売れて給料もあがる 買うんじゃないかと国に蔵せ
																												もう少し説明して
																												お金をはらわなかった
																												支店、起きた理由の予想 武器を作る会社の社長 自分が会社にならなくて 社長、給料、やらなかったら 社長がつかまらんやないん？ わかんないやないん？ イギリスと同様、日本も参戦 社長が、多く儲かる 何で給料が少ないのかなあ 家ととか働いている人 輸入とか あがっていくので 給料とか、上げるのが普通 競争をしりゃいい、競争 第一次世界大戦、もうけたお金 工場をいかに作らせたら 輸出などで、お金の差が出て 新しい工場などを作った 福岡の支店、賃上げ 要求 競争の競争も受けず、競争 作手が苦しかったのはなんで 工場の考えに、ちょっと敵で 競争のちょっと勝った人たちが わけてから、その人たちが 自分たちが取り占めた
																												そこにはお金が入らなかった
																												支店、いろいろなごまかしたり
																												MMさん、工場を作ったり 輸出を、外国の人に お金は、まだ、足りる SB君、競争が、なかったら 自衛とかは出なかった 参加してなかったら、輸出
																												日本も少し参戦していたらあ
																												賃上げをしなかったのは 外国との交渉を遅めたから SB君、4000万人もの死者 第一次世界大戦がなかったら 赤字、もっと日本は困っていた 赤字やっつあん？ そうやん
																												何が？
																												日本赤字やったんですか？
																												これちょっと見てみよう 輸入と輸出どちらが良く 輸入の方が良くなるやうな 赤字にここはなってる
																												近代化が遅れていたんで 輸入しすぎて、お金がなく
																												ちょっといったんとめます 聞いてると、大もうけしたこと 「給料が少ない」、学習問題
																												学習問題2 社長さん 1.5 あどか

福岡県 H小学校 6年 R先生指導 社会科 ③

福岡県 H小学校 6年 R先生指導 社会科 ③																											「本欄と水平線」 2005年度	
授業における発言内容の一部																								教	師			
T	A	T	Y	Y	A	H	S	T	M	T	J	S	M	A	M	M	S	M	K	M	S	S	T	C				
Y	M	S	U	K	K	S	B	K	S	A	N	T	M	R	T	A	Y	Y	N	H	A	O	O					
																								また意見を聞かせてください		3		
																								あ、先生に質問?		4		
																								おちよちゅ〜聞いてですね		5		
																								あつたんやないやろか				
																								その二人でいったんどうする				
																								福岡の実験の要求は書上げ				

福岡県 H小学校6年 R先生指導 社会科 ④

【本欄と水平社創設】 2005年度

T Y	A M	T S	Y U	Y K	Y K	A H	H S	T B	M K	M S	T A	J S	M A	M R	I T	M A	M M	S M	K Y	M Y	S N	S H	T A	S O	C O	授業における発言内容の一部分			
																										教師	子ども		
																												工場とかを作りすぎてから	5

*本授業で出された主要な言葉・概念とその記号

- ㊿.....米騒動
- ⚔.....炭坑
- ☆.....もうけ・もうか(る)
- E.....輸出
- Ⓢ.....賃上げ
- ¥.....お金
- △.....黒字
- Ⓣ.....給料
- *.....米
- ☺.....天皇
- Ⓜ.....政府
- Ⓤ.....社長 会社の一番偉い人
- ▼.....赤字
- Ⓛ.....(有毒な)ガス

神奈川県 Y小学校6年 O先生指導 社会科 戦争 2006年12月21日

時	分	教	節	授	課	内	容	の	一	部	分
I	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
I	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
I	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
I	40	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
I	50	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
II	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
II	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
II	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
II	40	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
II	50	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
III	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
III	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
III	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
III	40	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
III	50	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
IV	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
IV	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
IV	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
IV	40	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
IV	50	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
V	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
V	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
V	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
V	40	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
V	50	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

神奈川県 Y小学校6年 O先生指導 社会科 ②																							
授業における発言内容の一部																							
子ども																							
節																							
I	Z	K	H	Y	H	S	Y	G	S	K	E	D	T	Y	M	Y	M	Y	C	I	知っている人はいたわけだね	後継組合の人	3
																				I	なんでどんぐり拾いを振けた	兵隊の食料になるから？	
																				I	兵の食料にはしていないよね タンニン アルコール えき	はい はい 尊敬するようになる	
																				I	誰が誰を尊敬するの？	小国民が兵隊を尊敬する	
																				I	小国民が兵隊を尊敬するように	兵隊さんが命がけで戦って 期待がはずれた	
																				I	誰のものとする	このまま拾っていけば もっと アルコール タンニン えき 山に行ってわらびとか 山の薪 どんぐりをとるだけが目的では	
																				I	わざわざしなくても あごがね	どんぐりのついでに誰のものが 「歴史日本の歴史」 男の子 大きくなったら 「軍人」 そんなことさせなくても	4
																				I	ちよつと分からないですね ら時間目、少し、この服装 問題 KVの言った疑問 後継組合が、おれせられた	YSの言ったこと 疑問 誰のものとするんだったら それは、どんぐりの場合 誰のものももっと拾えば どんぐりは、いろいろなものに 0・000004% 軍事予算 すごくお金が そういう中で 1%以下でも国のために役に立 ても、1%以下じゃ、たりない 舞台さんの話にあった まわり どんぐりばかりなまわりなかつた 河崎園くらいだったの？	

* 本授業で出された主要な言葉・概念とその記号

- ☆……楽し(い) 喜ん(で) うれし(い)
- ⊙……国のため
- ▲……兵隊(さん)
- ♥……命がけ
- ↑……役に立(つ)・役立
- ≡……面倒・めんどう
- ㊤……怒られる・叱られる
- &……遊び半分(遊び感覚)
- ★……いやいや
- ⊕……食料・食べ物
- Q……疑問
- ⊕……尊敬
- ⊥……他のもの